

## 報告

## 2024 年度九州沖縄支部会報告

青柳千尋（佐賀市星空学習館）、前田利久（せんだい宇宙館）、  
松坂怜（東京大学大学院）、鴈野重之（九州産業大学）

## 1. はじめに

2025 年 2 月 22 日に九州沖縄支部会が開催された。会場は長崎県島原市の島原文化会館であった。本支部会は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、しばらくオンラインで開催していたが、今回は久しぶりに対面にて開催することができた。会の様子を図 1 に示す。今回の支部会では一般講演が 7 件と、一般市民にも開放して実施した特別講演が 1 件の計 8 講演があり、支部会としては 38 名の参加があった。支部会後の特別講演には 150 名の聴衆が集まったほか、観望会には 300 名もの参加者にご来場頂いた。ここでは支部会の概要を簡単に報告する。



図 1 支部会参加者と観望会スタッフ集合写真

## 2. 講演

支部会のプログラムを図 2 に示す。はじめに 7 件の一般講演があった。最初に高原さんより、「『スターパーティ in 白木峰』について」という題目で、九州で実施されてきた天体観望活動についての紹介があった。2 件目は「鹿児島学生団体 Pyxis(ピクシス)による天

文・宇宙教育普及活動の紹介」という題目で、松尾さん、笹井さん、堀切さんより、鹿児島大学の天文サークルが実施してきた天文普及活動についての紹介がなされた。次いで、「高齢者から子供まで楽しめる天文教材の開発」という題目で鴈野より立体星座模型を用いたワークショップの提案がなされた。

表 1 プログラム

|      |                                         |                           |
|------|-----------------------------------------|---------------------------|
| 1    | 「スターパーティ in 白木峰」について                    | 高原和徳                      |
| 2    | 鹿児島学生団体 Pyxis (ピクシス)による天文・宇宙教育普及活動の紹介   | 松尾たま希<br>/ 笹井梨名<br>/ 堀切月葉 |
| 3    | 高齢者から子供まで楽しめる天文教材の開発                    | 鴈野重之                      |
| 4    | プロキオンはシリウスより前に昇るのか？                     | 前田利久                      |
| 5    | SPACE FIGHT:宇宙教育カードゲームの開発と展望            | 伊東拓実                      |
| 6    | あの星まで何 km? ~年周視差で近傍星ラランド 21185 との距離を測る~ | 林あい<br>/ 刀根佳子             |
| 7    | 天文教育普及活動における若手の立ち位置を考える                 | 松坂怜                       |
|      | ビジネスセッション                               |                           |
| 特別講演 | 超伝導技術で挑む銀河とブラックホールの謎                    | 河野孝太郎                     |
|      | (観望会)                                   |                           |
|      | 懇親会                                     |                           |

その後、休憩をはさみ、後半戦のはじめに前田さんより「プロキオンはシリウスより前に昇るのか？」という題目で、緯度による天

体の出没時刻についての紹介があった。後半2件目は伊東さんによる「SPACE FIGHT：宇宙教育カードゲームの開発と展望」という題目で、カードゲーム形式の天体学習教材の開発についてのお話があった。次いで「あの星まで何km？～年周視差で近傍星ラランド21185との距離を測る～」との題目で、林さんと刀根さんより高校の天文部活動で得られた成果についての紹介があった。一般講演の最後に松坂さんより「天文教育普及活動における若手の立ち位置を考える」という題目の講演があり、主に大学生を中心に、若手の天文教育普及活動への積極的な参加についてについて議論された。

### 3. 一般普及イベント

今回の九州沖縄支部会では、一般講演およびビジネスセッションの後に、一般参加者も交えての特別講演会と観望会を実施した。

特別講演では、東京大学大学院理学系研究科の河野孝太郎教授を講師としてお招きし、「超伝導技術で挑む銀河とブラックホールの謎」という題目でご講演頂いた。銀河バルジとブラックホールの大きさには相関があることから、これらは共進化してきたと考えられる。しかも宇宙のかかなりの初期からこのような共進化は始まっていたことが明らかにされてきた。このようなブラックホールと銀河の成長過程を理解するために、ALMA望遠鏡を始めとする最新観測設備が力を発揮することをご紹介頂いた。

特別講演の後には質疑応答の時間が設けられ、会場から多くのご質問に対して一つ一つお応え頂いた。また小中学生からの質問にも丁寧にご回答頂いたほか、天文学などの先端科学を学んでいくためにどうすればよいかのアドバイスも頂いた。

講演会の後には、会場に隣接した島原城に移り、観望会を実施した。曇り空が心配され

たが、幸運にも夜には雲に切れ目が生じ、木星やすばる(M45)などを望遠鏡で観察することができた。観望会では地元の教育関係者や天文愛好家、鹿児島大学の学生、高校生などがスタッフとして参加し、20台程度の望遠鏡を並べての大規模な観望イベントとなった。管見の限り、島原でこのような大規模な天体観望イベントが開催されたことはかつてなく、多くの市民に天体観望を楽しんでもらうことができたと考えている(図2参照)。これらのイベントについては、別途報告予定である。

これらのイベントの後には、支部会会場で懇親会を行った。久々の対面での懇親会であり、ベテラン勢は再開を懐かしむことができたほか、多くの学生・生徒も参加し、様々な年代が入り混じって情報交換を行うことができた。

### 4. おわりに

来年度も九州沖縄支部では、冬期に支部会を開催する予定である。多くの方にご参加頂ければ幸いである。



図2 観望会の様子

鴈野重之